

2022年4月1日から2023年3月31日までにご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。



**認定NPO法人発足に伴う変更事項**  
一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

- 黒崎 沙安 様
- 岩松 洋一 様
- 前田 浩志 様
- 吉永 正夫 様
- 嶽崎 俊郎 様
- 西 順一郎 様
- 河野 嘉文 様
- 北郷 寿子 様
- 上野 健太郎 様
- 佐伯 るり子 様
- 今村 真理 様
- 伊地知 修 様
- 福川 みずほ 様
- 福川 勉功 様
- (株)ひおき 様
- 国分酒造株式会社 様
- 医療法人 清康 様
- 鹿児島南ロータリークラブ 様
- プルデンシャル生命保険株式会社 様
- 鹿児島教区仏教婦人会連盟 様

■一般寄付

本法人の活動意義をご理解頂き、額の多寡は関係なくご寄附を賜りますようお願い致します。現金收受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい。

■個人賛助会員：年会費・・・・・・12,000円

■法人賛助会員：年会費・・・・・・120,000円

■募金箱

募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております。ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい。

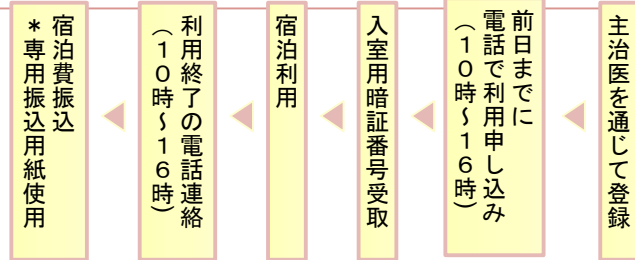
本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております。

入会申込書をホームページからダウンロードして事務局へお送り下さい。

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。基本的な電化製品・台所用品・寝具・他のご用意があります。1,000円/1泊(宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。セルフサービス(清掃、ゴミの始末、その他)です。ボランティアの方達によって維持管理して頂いております。ご協力を。

ご利用の流れ



\*(注)要/事前登録/ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目(鴨池電停から徒歩1分)にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人こども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ/こども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定NPO法人こども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学病院 小児診療センター小児科内  
電話：099-275-5354

認定NPO法人こども医療ネットワーク事務局  
電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

活動】離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援することを目的に設立されました。また、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減するための事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

お約束】皆様からお預かりした個人情報  
・会員のご案内の発送以外の目的で使用することはありません。  
・ご本人の同意なく第三者に開示・提供することはありません。

会員の方々と事務局を結ぶ……

こねっと通信

2023.spring.VOL.24



■ファミリーハウス

■健康相談会

■こども救急箱

■その他

Save the Children  
私達は離島・へき地の  
難病児を支援します



すべての子どもに適切な小児医療と  
快適な闘病生活を



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)  
こども医療ネットワーク





# こねっと通信



こども医療ネットワーク

## 理事長通信

新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日第5類感染症へ変更される。マスクの着用をはじめとする、社会活動の制限がすでに緩和されつつあります。4月に東京を訪れた時には、路上ではマスクをしていない人の割合が増えているように感じました。当法人が支援の対象としている高度な医療を要する小児の疾患について、新型コロナウイルス感染症によって診断が遅れたり、治療を中断したりすることがありましたが、幸いに大きな問題にはなりませんでした。

令和4年には、受診のための交通費支援を22名に對して行いました。ファミリーハウスの利用者は36名で合計40泊利用していただきました。これらの活動は、正会員、賛助会員の皆様からの会費、およびさまざまな個人、団体、企業からの寄付金によって実現しております。改めて感謝申し上げます。

コロナ禍には実施できなかった相談事業と研修事業を令和5年度から再開したいと考えています。社会情勢とコロナ禍のせいで、出生数が激減し、少子化が加速していますが、ひとりひとりの子どもが大切であることには変わりありません。当法人は、離島へき地での相談事業、研修事業を通じて、子どもたちの命を少しでも守ることができるよう活動をしていきたいと思います。

### ファミリーハウス「利用者ノート」の声

鹿児島市で長期入院する離島へき地の子どもとご家族のための宿泊施設「ファミリーハウス」。基本的な電化製品・台所用品・寝具等のご用意があります。人数問わず1泊千円でご利用できます。

部屋のノートには利用者の感謝の声がつけられています。

- 「初めて利用させていただきました。今までは車中泊やビジネスホテル等を利用していたので、安く泊まることのできてとてもよかったです。快適に過ごすことが出来ました。ありがとうございます。」
- 「毎回ありがとうございます。たくさんサポートに支えられ通院できているなどつくづく思います。感謝感謝の日々です。」
- 「いつもお世話になってます。今回は台風の影響で1日早く借りることができて、とても助かりました。ありがとうございます。」

- 「地元でも市内でも通院・入院が頻回で、市内での滞在期間も受診しないとはっきりしない状況なので、泊めて頂けて本当に助かっています。こちらで子どもと一緒に温かいものを食べるとほっとして元気ができます。」

## ブルデンシャル生命さまから ご寄付をいただきました

令和4年10月、ブルデンシャル生命さまからたくさんのご寄付をいただきました。

離島の子ども達のために役立つよう、大切に使用させていただきます。心から感謝申し上げます。ありがとうございます。



## こども救急箱

### 《鼻血》

—頻繁な場合は医療機関へ—

こども医療ネットワーク会員  
精松 貴成  
(国立病院機構鹿児島医療センター小児科)

2022年7月29日  
南日本新聞掲載

子どもが頻りに鼻血を出すことを経験された保護者は多いのではないのでしょうか。保護者自身にも、そのような経験があるかもしれません。「よく鼻血がでるが、大丈夫だろうか」と心配になることがあると思います。ほとんどの場合は大事に至りませんが、厄介な病気が隠れていたり、なかなか止まらなくて苦労したりすることがあります。乾燥や外傷が原因の場合や、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、時には血液の病気が見つかることもあります。

鼻の入り口から1〜2cmの付近に「キーゼルバツハ部位」と呼ばれる場所があります。毛細血管が集まり、粘膜が薄くなっているため、非常に傷つきやすく、少しの刺激で出血してしまいます。大部分の鼻血はここからの出血です。

止血のポイント  
鼻を両方から挟むようにして指で押さえることです。ティッシュペーパーなどを鼻に詰めることはあまり推奨されません。詰めた際に鼻の粘膜を傷つけて傷口を広げたり、取り出すときに「かさぶた」がはがれて再び出血したりするからです。また、「首の後ろをトントンたたく」、「鼻の付け根の固い部分をつまむ」というのもよく聞きますが、これらは迷信であり止血効果はありません。

止血時に上を向いて寝ると、血液が喉に流れ込み、飲み込んだ血液が胃にたまることで吐き気が生じ、嘔吐の原因になります。腰掛けて少し前かがみの姿勢で止血してください。10分も押さえていれば止血するでしょうが、それでも止まらない場合や、鼻出血が頻繁にある場合は医療機関の受診をおすすめします。受診する際は出血の持続時間のほか、左右どちらから出血しやすいか、歯茎からの出血や腕や足に紫斑などの出血症状があるかどうか、内服中のお薬の情報があれば教えてください。



## こども救急箱

### 《起立性調節障害》

—家族や周囲の理解が大切—

こども医療ネットワーク会員  
四元 景子  
(今村総合病院小児科)

2022年9月30日  
南日本新聞掲載

子どもの生活習慣として「早寝、早起き、朝ごはん」が推奨されていますが、早起きが苦手な子どももいます。早起きしようと思っても起きられない原因はいろいろあり、起立性調節障害という疾患の場合があります。

朝なかなか起きられず午前中は調子が悪い、立ちくらみや目まいを起こしやすい、顔色が悪い、疲れやすい、入浴すると気持ち悪くなる、乗り物酔いしやすい、頭痛や腹痛がある、といった症状があれば可能性があります。起立性調節障害は自律神経系の不調で、起立時に血圧の調整ができず脳血流が低下する疾患です。10歳から16歳くらいで発症しやすく、小学生の約5%、中学生の約10%に見られます。

登校できないなど日常生活に支障がある場合、

1年後の回復率は50%程度、2〜3年後で70〜80%回復していきま。本人は頑張りたくても体がうまく動いてくれません。周囲の理解がないと、抑うつ傾向になることでもあります。長い時間をかけて体調を良くしていく上で、家族や周囲の理解が最も大切です。

病院では、診察や血液検査、心電図検査などで他の病気がないかを調べ、血圧の詳しい検査で起立性調節障害かどうかを診断します。生活習慣を整え、水分・塩分を多めに摂取することが勧められています。弾性ストッキングを着用したり、内服薬を使用したりすることもあります。午後の調子も重要です。サプリメントや整骨による改善は現時点で明確な科学的根拠がありません。

新型コロナウイルス禍で生活が大きく変化し、運動量も減ったことで、起立性調節障害を発症する子どもが増えています。気になる症状がある場合は、かかりつけ医に相談してみ

「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。

《宛先》  
〒890-8520  
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1  
鹿児島大学病院  
小児診療センター小児科内  
「こねっと通信」係

E-mail  
kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)  
こども医療ネットワーク  
ホームページは随時更新中です  
<https://kodomoiryo.jp>

「こねっと通信」表面に掲載させて頂けるお子様の写真を募集しております。  
下記住所にお送り頂くか、E-mail kodonpo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp まで  
〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学病院 小児診療センター小児科内 「こねっと通信」係

※こども救急箱の記事は2006年4月から隔週で掲載されており、現在は月に1回掲載されております。